

平成 30 年度 全国私立中学高等学校
私立学校特別研修会
外国語（英語）教育改革特別部会
【西日本エリア】
実施報告

一般財団法人日本私学教育研究所 主催／日本私立中学高等学校連合会 後援

当研究所では、私立学校においても、外国語(英語)教員の外国語(英語)力・指導力強化を図るためには、教員が 21 世紀型教育に相応しい最新の教授法と情報を早急に取り入れる必要があることから、平成 27 年度より専門家の指導による特別研修「外国語(英語)教育改革特別部会」を実施しており、平成 30 年度も引き続き、専門家の指導に「英語教育推進リーダー中央研修(※)」受講者の指導によるワークショップや実践発表等を加えて、東日本・西日本エリアで研修を実施致します。

【西日本エリア】では、初日は久留米大学附設中学校・高等学校を会場に、英語の授業の視察、視察校の教員を交えて意見交換等を行います。同校は難関大学に多数の生徒を送り出し、特に国立大学医学部への進学率が非常に高く、「授業がいのち」とする中身の濃い、高水準の英語教育が行われています。

翌日はリファレンス駅東ビル貸会議室において、言語学者/名古屋大学大学院文学研究科名誉教授で久留米大学附設中学校・高等学校校長の町田 健氏による講演、文部科学省「英語教育推進リーダー中央研修」受講者によるワークショップを行います。また、参加者の交流を深めてネットワークづくりを進める多彩なプログラムを用意しています。

- ◆ 会 期 ◆ 平成 31 年 2 月 22 日(金)～23 日(土)
- ◆ 会 場 ◆ 久留米大学附設中学校・高等学校 (22日) 福岡県久留米市野中町 20-2
 リファレンス駅東ビル貸会議室(博多駅筑紫口) (23日) 福岡県福岡市博多区博多駅東 1-16-14
 リファレンス駅東ビル 5 階
- ◆ 参加人員 ◆ 55 名
- ◆ 参加対象 ◆ 私立中学高等学校の英語科教員 (ワークショップは英語で行われます。)
 ※参加対象校は、都道府県私学協会加盟の私立中学校・高等学校・中等教育学校
- ◆ プログラム ◆

- ① 研究授業 久留米大学附設中学校・高等学校 (授業視察・施設見学)
- ② 実践発表 テーマ「自立的学習者をつくるライティングの指導」
 発表者 家中 潤 久留米大学附設中学校・高等学校 教諭
- ③ 質疑応答・意見交換会 ☆研究授業者との質疑応答、グループでの意見・情報交換を通して課題を探究します。
- ④ 講演 演 題 「言語としての英語の特徴」
 講 師 町 田 健 言語学者/名古屋大学大学院文学研究科名誉教授
 久留米大学附設中学校・高等学校 校長
- ⑤ ワークショップ ☆ワークショップ後にグループに分かれて意見交換会を行います。
 テーマ 「英語で授業のヒント Teaching English in English」
 指 導 文部科学省事業「英語教育推進リーダー中央研修」受講者

◆ 日程概要 ◆

時刻	9 30	10	11 30	12 15	13 25 35	14	15 10 25 50	16	17
2月22日(金) 久留米大学附設 中学校・高等学校				受付	開 会 式	①研究授業	② 実践 発表	③ 質疑応答 ・意見交換会	
2月23日(土) リファレンス 駅東ビル貸会議室		④講演	⑤ ワークショップ	昼食	⑤ ワークショップ		意見 交換会	閉 会 式	

※小学校・中学校・高等学校等を通じた英語教育改革を進める文部科学省では、平成 26 年度より英語教員の英語力・指導力強化を図る観点から、英語指導力向上事業「英語教育推進リーダー中央研修」を外部専門機関に委託し実施しています。同研修は、全国の国・公・私立学校の英語教員を対象にしているものの、公立学校を中心とした研修の仕組みになっていたことから、私学関係者の要望に応じて、文部科学省は平成 27 年度より私立学校教員が参加しやすいよう受入体制を整備し、私立学校教員も参加できるようになりました。

◆ 日 程 表 ◆

2月22日(金)

〔会場 久留米大学附設中学校・高等学校〕

12:15	受付 〔正面玄関入り口〕		
13:00	<p>開会式</p> <p style="text-align: right;">司会 川本 芳久 一般財団法人日本私学教育研究所 理事・事務局長</p> <p>1. 開式</p> <p>2. 主催者挨拶 一般財団法人日本私学教育研究所 理事長 吉田 晋</p> <p>3. 視察校代表挨拶 久留米大学附設中学校・高等学校 校長 町田 健</p> <p>4. 日程説明 久留米大学附設中学校・高等学校 教諭 家中 潤</p> <p>5. 閉式</p>		
13:25			
13:35	◆研究授業 (授業は各教室で行います。)		
	5限目 (13:35~14:25)		
	学年・クラス	授業名	授業者
	中学1年D組	英語	藤木 克哉
	高校2年C組	英語表現	家中 潤
14:25			
14:35	6限目 (14:35~15:25)		
	学年・クラス	授業名	授業者
	中学2年A組	英語	大藪 良一
	高校2年C組	コミュニケーション英語Ⅱ	山河 聡子
	高校2年D組	英語表現	家中 潤
15:25			
15:35	◆実践発表		
	司会 外国語(英語)教育改革特別委員		
	テーマ	「自立的学習者をつくるライティングの指導」	
	報告者	家中 潤 久留米大学附設中学校・高等学校 教諭	
16:00	◆質疑応答・意見交換会		
	研究授業を受けての質疑応答の後、グループに分かれて意見交換を行います。		
	1. 質疑応答 (16:00~16:30)		
	司会 山崎 吉朗 一般財団法人日本私学教育研究所 主任研究員		
	2. 意見交換会 (16:30~17:00)		
	ファシリテーター 外国語(英語)教育改革特別委員、山崎 吉朗・主任研究員		
17:00	解 散		

視察校での写真撮影について

生徒個人が特定できる写真撮影は禁止とします。撮影した写真は学校内の研修や報告等に活用する場合に限り使用を許可しますが、学校のホームページや紀要・報告書等への掲載、参加者個人のSNSやインターネットのサイトへのアップロードは禁止とします。また撮影写真の使用後は速やかに破棄いただきますようお願いいたします。また、動画(ビデオ撮影等)についてはすべて禁止とします。

2月23日(土)

〔会場 リファレンス駅東ビル貸会議室 5階 V2〕

9:30	◆講演 司会 外国語(英語)教育改革特別委員 演題 「言語としての英語の特徴」 講師 町田 健 言語学者/名古屋大学大学院文学研究科 名誉教授 久留米大学附設中学校・高等学校 校長
11:00	◆ワークショップ テーマ 「英語で授業のヒント Teaching English in English」 ※文部科学省「英語教育推進リーダー中央研修」受講者が担当します。 研修内容の一部をご紹介します、日頃の授業での活用方法を考えます。 Aグループ:「書くこと」に係る言語活動(Writing) 丸橋由佳 関東第一高等学校 教諭 Bグループ:「書くこと」に係る言語活動(Writing) 中村大志 東海大学付属相模高等学校 教諭 〔会場:A:5階V2/B:5階V4〕
12:00	◆昼食 ※各ワークショップ会場にて、情報交換会・懇親会を兼ねて昼食をお取り下さい。
13:00	◆ワークショップ テーマ 「英語で授業のヒント Teaching English in English」 Aグループ:「話すこと」に係る言語活動①(Speaking 1) 上原正信 九州国際大学付属高等学校 教諭 Bグループ:「話すこと」に係る言語活動①(Speaking 1) 中村大志 東海大学付属相模高等学校 教諭 〔会場:A:5階V2/B:5階V4〕
14:00	◆ワークショップ テーマ 「英語で授業のヒント Teaching English in English」 Aグループ:「話すこと」に係る言語活動②(Speaking 2) 上原正信 九州国際大学付属高等学校 教諭 Bグループ:「話すこと」に係る言語活動②(Speaking 2) 丸橋由佳 関東第一高等学校 教諭 〔会場:A:5階V2/B:5階V4〕
15:00	◆休憩
15:10	◆意見交換会 ※ワークショップに関して、文部科学省事業「英語教育推進リーダー中央研修」受講者および参加された先生方で、質疑応答を交えながら意見交換を行います。 〔会場:A:5階V2/B:5階V4〕
15:50	◆閉会式 〔会場:5階V2〕 司会 外国語(英語)教育改革特別委員 1. 開式 2. 総括 一般財団法人日本私学教育研究所 主任研究員 山崎 吉朗 3. 閉式
16:00	解 散

※プログラムの内容等は変更となる場合があります。

※参加された先生方で意見交換会を行いますので、名刺をご持参下さい。

【照会先】(一財)日本私学教育研究所 特別研修会担当 TEL 03-3222-1621

◆ 学校紹介 ◆

久留米大学附設中学校・高等学校 (校長 町田 健)

1950 (昭和 25) 年創立。高校は 2005(平成 17)年度から、中学は 2013(平成 25)年度から女子の募集・受け入れを開始し、男女共学の中高一貫校となった。板垣政参・原巳冬両氏により定められた「国家社会に貢献しようとする、為他の気概をもった誠実・努力の人物の育成」を建学の精神とし、「豊かな人間性と優れた学力とを備えた人間を育成すること」を教育方針としている。卒業生は東京大学や九州大学など、日本有数の大学に進学し、産業、行政、司法、学術など、多様な分野で指導的な役割を果たしている。特に国公立の医学部への進学率が非常に高く、医療のあらゆる分野において卒業生が展開する活動には顕著なものがある。

◆ 講師プロフィール ◆

町田 健

言語学者／名古屋大学大学院文学研究科名誉教授。2017 年 4 月より久留米大学附設中学校・高等学校校長。専門は言語学。1957 年福岡県生まれ。1979 年東京大学文学部卒業。1986 年東京大学大学院人文科学研究科博士課程単位取得。東京大学助手、愛知教育大学・成城大学・北海道大学助教授、名古屋大学文学部教授、同大学大学院文学研究科教授を経て現職。主な著書に『言語学が好きになる本』(研究社出版 1999 年)、『ソシユールと言語学』(講談社 2004 年)『大学生のための英文法再入門』(研究社 2014 年) などがある。大学ではできるだけ幅広く多様な言語に関心をもちながらも、言語現象の背後にある普遍的原理を自ら発見することができるような論理的・科学的思考方法を会得させるように努めてきた。現在は校長職を務める一方、著書の執筆も続けている。

◆ 講師・発表者・指導員(順不同) ◆

町田 健	久留米大学附設中学校・高等学校	校長
家中 潤	久留米大学附設中学校・高等学校	教諭
吉田 晋	富士見丘中学・高等学校	理事長・校長
中川 武夫	蒲田女子高等学校	顧問

文部科学省事業「英語教育推進リーダー中央研修」受講者

◆ 特別委員・指導員(順不同) ◆

平方 邦行	工学院大学附属中学校・高等学校	校長
家中 潤	久留米大学附設中学校・高等学校	教諭
山本 永年	市川中学校・高等学校	教諭
浜野 能男	普連土学園中学・高等学校	教頭
川本 芳久	一般財団法人日本私学教育研究所	事務局長
山崎 吉朗	一般財団法人日本私学教育研究所	主任研究員

私立学校特別研修会

外国語(英語)教育改革特別部会【西日本エリア】

実施概要

平成31年2月22日・23日、久留米大学附設中学校・高等学校およびリファレンス駅東ビル・貸会議室を会場に開催し、全国の英語教員55名が参加した。

初日は久留米大学附設中学校・高等学校にて開会式を行った後、研究授業を視察。続いて家中潤・同校教諭からの実践報告、研究授業を行った先生方との質疑応答の後、全体で意見・情報交換を行った。

2日目はリファレンス駅東ビル貸会議室に会場を移し、初日の視察校校長であり、名古屋大学大学院文学研究科名誉教授でもある町田健先生の講演と、文部科学省事業「英語教育推進リーダー中央研修」(※以下LEEP)平成30年度受講者の先生方の指導による英語でのワークショップ、意見交換会が行われた。意欲溢れる参加者と熱心な講師・指導員の協力により、2日間を通して充実した研修会となった。

【2月22日(金)】

開会式

①主催者挨拶(吉田晋・当研究所理事長)

久留米大学附設中学高等学校は、国公立医学部進学で有名な名門校だ。会場としてお借りし授業を視察させて頂く機会は決して多くない。多大なご協力を頂いた町田校長、家中先生に感謝申し上げる。

英語教育は大きな変換期を迎えている。2020年から英語4技能入試が採用されるが、どの様に使うか、詳細は決定しておらず、懸念点も解消されていない。私学は、各学校が英語教育を変えようと努力している。本日のような研修を受けて学校へ戻り、変えることができる。そして、子どもを中心に考えることができる。本日の内容を自分の学校に持ち帰り、生徒達のために活かして頂ければ幸いだ。今回は予定を上回る応募を頂いている。ぜひ有意義に過ごしてもらいたい。改めて、全国から沢山の先生方にお集まり頂き感謝申し上げます。

②視察校代表挨拶(町田健・久留米大学附設中学高等学校校長)

本日は遠いところ多くの先生方にお越し頂き感謝申し上げます。この研修会が良い機会となればと考えている。ノーベル文学賞を受賞したデレック・ウォルコットが自慢するように、英語は10億人が話す有用な言語であり、中等教育の重要な科目だ。この研修会を良い機会として、英語教育をさらに高めて頂きたい。

③研修会運営方針説明(平方邦行・外国語(英語)教育改革特別委員)

これほど沢山の先生方にご参加頂き、お礼申し上げます。町田校長をはじめ、多くの教職員の皆様にご協力頂いた。改めて感謝申し上げます。

本日はLEEP4期生の方々が、習得したものを皆さんへ還元する場でもある。このプログラムは来年度まで続くが、リーダー研修の終了に伴い、その後は日私教研を中心に再スタートする。実施要項には、「教員が21世紀型教育に相応しい最新の教授法と情報を早急に取り入れる必要がある」と述べられているが、かなり差があるように感じる。また吉田理事長より2020年以降の状況について説明があったように、英語4技能入試についてはまだ決まっていないことばかりだ。日私教研と中高連は発信を続ける。真実を見極めて英語教育に取り組んでもらいたい。本日は多角的に英語という教科を考え、研鑽に努めてもらえれば幸いだ。良い研修になることをお祈り申し上げます。

研究授業

研究授業は、5・6時間目に中学1年、2年、高校2年の計5つのクラスで英語の授業を視察した。生徒達が積極的に授業に参加する姿が印象的であった。参加者からは「生徒達が楽しそうに英語を学んでいた。」「生徒主体の授業が多く、自校でも実践したいと思った。」「授業の進行に無駄がないよう工夫されている点が多々あり、取り入れたいと思った。」等の声が寄せられた。



実践報告【家中潤氏】

家中潤・久留米大学附設中学校・高等学校教諭より「自立的学習者をつくるライティングの指導」と題し実践発表が行われた。最初に同校英語科の取り組みについて報告があり、その後ライティングの指導について具体的な例を挙げながら、実践の詳細が報告された。



①本校の英語科について

1950年に開学した同校はもともと男子校であったが、2005年に高校、2013年に中学が男女共学となった。共学になってから、英語に興味・関心を持つ生徒の数は増えたが、全体的には、数学・理科が好きな生徒が大多数であり、1学年200名のうち、4分の3にあたる150名が理系クラスに所属している。

英語教育については、授業は中学で週6単位、高校で7単位があり、それぞれの学年で英語科教員がチームを作り、6カ年の指導プログラムを作っている。外部検定は、中学3年で英検準2級、高校2年で英検2級を必達目標として掲げ、英検の他にもGTECは6学年中5学年(2018年度)で実施するなど、積極的に取り組んでいる。

②ライティング指導について

以前のライティング指導では、生徒が持参した初稿(first draft)を、教師が時間をかけて添削し返却する流れで指導をしていた。しかし、いくら教師が添削作業に時間を費やしても、期待するような成果を得ることはできなかった。この状況を克服するため、同校英語科の同僚と改善策を見出すべく議論を重ねた。また、他の英語教育推進リーダーからの助言や、研修会での情報収集などを通して、指導方法の改善策を模索した。そうした努力を重ね、指導方法を以下のように改めた。

1. Self-Check 作文をしたら、自分で添削を行う
2. Peer Feedback 自己添削の後、友達に見てもらう。
3. Rewrite 友達に見てもらった後、改めて作文をする。

この3段階の学習プロセスを導入したことによって、生徒のライティング力が着実に向上しはじめたことを実感した。さらに、学習に取り組む姿勢の変化、すなわち、生徒の自立的な学習姿勢が作られたことも大きな成果であった。

また現在も大学入試で出題されている「和文英訳」問題の対策指導では、和文をそのまま英語に訳すのではなく、一度、和文を別の日本語に置き換えることによって、より正確な英語表現を導き出すという方法を教えている。

質疑応答・意見交換会

5・6限目の研究授業と実践発表について、授業を担当された久留米大学附設中学校・高等学校の先生方を招き、質疑応答を行った。その後、参加者によるグループでの意見・情報交換が行われた。意見交換では、学校現場で抱えている課題や具体的な授業の手法に関する質問など、英語教育に関して実に様々な議論が交わされた。また、指導員やオブザーバーとして参加した英語教育推進リーダーがグループに加わり、参加者の質問に対して適切なアドバイスを送っていた。



【2月23日（土）】

講演

町田健・名古屋大学大学院文学研究科名誉教授／久留米大学附設中学校・高等学校校長より「言語としての英語の特徴」と題し講演が行われた。著名な言語学者である氏の博学さとユーモアな語り口で聞き手を魅了した。英語以外の言語も見ることによって英語の特徴を捉えるといった講演は、英語教員にとって珍しい機会といってもよく、さらに学ぶためにどのような書籍をあてれば良いかなど意欲的な質問も出され、大盛況であった。



インド・ヨーロッパ語族の言語である英語。現在の世界で重要な言語の一つであることは間違いない。

英語は中国語・インドネシア語と同じ SVO 言語だ。日本語には若干の無声化はあるものの原則として母音をはっきりと発音する特徴がある一方、英語はアクセントのある母音以外は曖昧に発音される傾向にある。

英語の不思議な点はいくつもある。例えば、John fell in love with her. の疑問文に do が出てくる理由はシェイクスピアの時代に見出される。古英語にはなかった冠詞が存在する。英語には不定冠詞の複数形がない一方でフランス語にはある。前置詞なのに後ろに名詞がないが、他の言語にはある。事柄の可能性を表す助動詞が多い。フランス語からの借用語が多い。15 世紀の大母音推移(The Great Vowel Shift)など英語の変化が速い。

また、英語を他の言語と比較すると、以下ようになる。

- ・中国語：疑問詞を文頭に置かない（日本語と同様）、目的語を文頭に置く構文がある。漢字の習得。
- ・ハワイ語：日本語と似ている、ただし声門閉鎖音がある。
- ・ラテン語：主格・属格・与格・対格・奪格 / 単数・複数 / 接続法（仮定法）の存在
- ・古典ギリシア語：語形変化が複雑（辞書を引くための辞書が存在する）

It's Greek to me. という表現があるのも頷ける。

- ・フランス語：綴りの変化が一見複雑でも、発音の変化が大きくない（aimer の活用など）
- ・イタリア語：文化面で大きな影響を及ぼした。発音と綴りの関係が明瞭。

philosophy イタリア語だと f で始まる (filosofia)。

- ・ドイツ語：基本語彙が英語と似ている。Hochsommer, Vater など。

さらに、英語の特徴には以下のものがある。

冠詞：物事の定性(definiteness)を表す〔定・不定〕。名詞は「ものや事柄」の集合体を表す。

英語の定冠詞には単数と複数の形態的区別がない。英語：The／ドイツ語：Der, Die／Le, Les など
英語の不定冠詞には複数形がない。英語：an / ドイツ語：einen / フランス語：une, des など
不可算名詞に用いる不定冠詞がない。英語：wine / フランス語：du vin など

関係節：文に近い形式で、名詞が表示する事物を限定する。

関係節を用いることにより、事物をより強く限定することができる。

英語 which, whenなどを明示されると関係節の始まりがわかるという点で便利と言える。

→関係詞のない言語：日本語ほか

→関係代名詞があるのに省略をすることがあるという不思議さもある。

時制・アスペクト・動作態

・現在・過去・未来

・進行形はアスペクトの概念が不可欠。「全体相」「部分相」の区別を。

今雨が降っている。(雨が降ることの部分しか起き得ない)

・動作態(aktionsart)〔Vendlerによる動詞4分類〕

〔英語の時制体系〕

・未来の未来を表す時制がラテン語にはあるが、そういった例を除けば英語は時制に対して整っている。
〔状態・行為・達成・到達(瞬間)〕

・状態＝事態の全体と部分が等しい。＝わざわざ進行形を使う必要がない。

日本語は「～ている」と表現することが多い。(love)

・行為＝事態の全体と部分は異なるが、適当な時区間を設定すれば、全体と部分が等しくなる。(run)

・達成＝事態の全体と部分は常に異なる。(make)

・到達(瞬間)＝事態に部分が存在しない。しかし「死んでいる」「とまっている」などの例もある。

フランス語には進行形がない。La fille joue au violon.(The girl is playing the violin.)など。

英語の非進行形は「習慣相」と考えることができる。

現在完了と過去の区別が失われている言語が多い。

フランス語：Elle chanta une chanson. → Elle a chanté une chanson.

・現在完了時制と現在完了進行形の区別、その概念の難しさ。

ワークショップ・意見交換会

参加者はAグループとBグループに分かれ、LEEP受講者による指導のもと、ワークショップが行われた。今回のテーマは「英語で授業のヒント Teaching English in English」で、ワークショップ終了後は各グループでワークショップを振り返り、意見交換会が行われた。参加者からは「とても参考になった。」「各学校の現状と悩みなど共有できて、大変有意義な時間となった」等の感想が寄せられた。



○Aグループ

1 One-minute conversation

(Introduction 1 - schedule of this part)

(Introduction 2)

By showing examples, define what 'One-minute conversation' is.

(1) What is good topic?

a) How can achieve world peace?

b) What's your favorite film?

Choose familiar, easy-to-speak topic for students. →(b)

(2) Conversation should be two ways

(3) Conversation is speaking, not reading

(4) Conversation should have information gap.

Which conversation has information gap?

a) How is the weather today?

b) What did you watch on TV last night?

a) – no information gap - Both know the answer.

b) – information gap - the partner doesn't know the answer

1.2 How 'One-minute conversation' help students.

Repairing conversation when they break down

Maintaining conversations

2 Demonstration

(Another one minute-conversation)

Topic: Your favorite place in Japan.

3 Pictures of typical sightseeing spots in Japan

(Activity)

Talk about your partner about your favorite place in Japan.

After listening to the model conversation between Masa and Bob, find what's Bob's favorite place and why he likes it.

(Model conversation)

Masa: Hi Bob!

What's your favorite place in Japan?

Bob: Probably Hokkaido

Masa: Why do you like it?

Bob: Actually I love skiing so I go there every winter.

It's really cold but at night I go to a restaurant and enjoy Jingsu-kan.

Masa: What's Jingsu-kan?

Bob: It's a big meat barbecue.

Masa: Well, then where is your favorite place.

(Activity - conversation practice)

(1) Think about your favorite place in Japan (1.min.)

(2) practice useful phrases.

What's your favorite place in Japan? (repeat)

your favorite place, (practice 3 times individually)

(Micro-teaching practice - pair work with the one in front of each trainee.)

Discussion as teachers

Theme - What's the use of one minute conversation?

- conversation about a familiar topic
- interactive conversation
- not reading aloud (speak spontaneously)
- find something new about your partner. (information gap)

4. Micro-teaching a one-minute conversation

(Activity - Micro-teaching)

procedure

Make a pair sitting next to you - pair As and pair Bs

5 minutes - pair A teachers teach pair B students

Pair B give feed back to A

Preparation for micro-teaching

Theme - choose one from the following

What your favorite restaurant ?

place to go on holiday?

way to relax?

decide which one you want to do.(1 min.)

Both pair A and B choose the topic.

※ some questions from trainees about the procedure

Trainer re-explain the procedure

First, pair A (teachers) have model conversation.

Pick some useful phrases you used that you can teach to students (1 min.)

Practice setting up the following key stages.

(10 minutes for preparation of micro teaching plan as teachers)

First A - teachers B - students

Second B - teaches A - teachers

(5 minutes - pair A microteach to pair B)

(pair B give feed back to pair A)

(5 minutes - pair B microteach to pair A)

(pair A give feed back to pair B)

(Trainer's feedback to the trainees' micoteaching)

Most of the trainees did very well, but some of them seem to have spent too much detail on stage 1 and 2. (Set the topic, Model the conversation) Some groups' additional questions were quite motivating

質疑応答・意見交換会

司会 (伊藤特別委員)：本日の研修の内容をすでに実践している学校はあるか。(3～4名挙手)

なかなか実践するのは難しいと思う先生は？(半数弱挙手)

私の所属校の大同大付属は英語が苦手な生徒が多いが、LEEP 研修後大きく変えたことがある。

コミュニケーション英語の時間を2分割15～20人のクラスにしてもらったことだ。このワークショップもこの程度の人数である。学校の授業で理想的な環境を作った。英語表現の授業は40人だが、小さなクラスでの授業実践があると大きな数でも可能となる。

大同大学大同高等学校教諭：大同大付属の工業科でもそれはできていると思う。

質問：タスクの自由度を高めると生徒はやる気が出てくると思うが、活動の自由度が上がって、生徒が想定外の反応をするときどう対処すればよいか。

原田 (LEEP 受講者※以下受講者)：帰国子女のような良くわかる生徒がいればそれに振る。また、今度の課題にしようとするのも手。しかし生徒の自由度をあげてモチベーションを高めるのはとても大切。

司会：自由度を上げるうえでキーとなるのは personalization、自己関連性という考え方。自己関連性、自分に関係あることを取り上げると自由度は高くても答えは生徒の身の回りのことなので、答えは自分でわかっているということになる。

質問：生徒が自分で英語にできないようなことを質問してきたらどうしたらよいか。

司会：たしかにそれはある。教員も英語の力をつけていくのは課題だし、また時には授業中にアルクの辞書などを使うこともある。ネイティブでないので一緒にやろうという意識で進めている。

田嶋 (受講者)：その表現を5歳児に日本語で説明するのはどうすると生徒に振るなど、難しい語を日本語で言い換えることはよくある。

司会：それは家中潤・久留米大学附設中学高等学校教諭 (特別委員) の昨日の話にもつながると思う。

質問：All English で授業をやっても、新しい内容の指示が英語で伝わらないのではと思って踏み切れない。生徒が理解できないと思うときに日本語を使ってもいいのか、パラフレーズなどして英語を使うことを貫くのか。

家中特別委員：生徒が英語で活動する時間を担保するために日本語を使ってもいいのではと自分では思っている。先生の英語がきれいすぎると生徒が話せなくなる面もある。

司会：ブリティッシュ・カウンシルの最近の考え方では、生徒が英語を使う量を増やすことを最大の目的にしているので、状況に応じて日本語を使ってもよいと思う。

藤下 (受講者)：All English でやると自分がどれだけ英語ができないかと感じ、自分の英語の向上にも努力しなければと思う。ずっと All English でやっていると、生徒は自分が間違った英語を使うと間違っているとわかってくる。正しい英語で指示をすると通じる。自分の英語の練習もかねて英語を使うのを貫こうと思う。日本語で授業した方が、生徒が寝るということもわかった。3年前から All English の授業を実施している。昔ながらの授業でなれた生徒は始めは戸惑っていたが、確実に言えることは、指示は英語で通じるようになってくるということだ。重要なのは続けること。腹をくくってやれば1年後には生徒は成長する。

質問：今日は色々の良いことを聞いたと思うが、教科書を開くと今日学んだことをどう生かせばいいのかと思う。どうやって教科書を生かせばよいか“こつ”があれば教えて欲しい。

上原 (受講者)：LEEP 研修を受けて自分でそれを生かした授業を作ろうと2年近く努力しているが、始めはうまくいかないが作っている内にここはこうできるとわかってくる。こつはこれとはっきり説明はできない。やってみて失敗している内にわかる部分がある。メインは検定教科書だが、ESLの第二言語習得用のピアソン、オックスフォードのものなどは視点が違ってヒントが多い。

司会：Leep 研修の Reading のセッションは教科書が生かせる部分が多い。また、題材を reading したあとで speaking activity に行かすといったやり方もある。最後にアナウンスしたいのは、学校単位で、あるいは県の私学協会単位で英語教育リーダーを呼んで頂ければ伺って一緒に授業を考えていくこともできる。窓口の自分のアドレスを書いておくので、連絡して欲しい。

(残り10分でグループ毎の意見・情報交換)

○Bグループ

British Council 提供のセッションノートを用い、研修は全て英語で行われた。

Writing

参加者が、生徒役となり書き、Correction Code を用いて、生徒役の参加者同士で誤りなどを指摘する体験。文法・綴りの誤りを指摘する段階を経て、書き上げたものの内容に焦点を当てて評価をする活動まで繋いだ。

Speaking (1)

多くの組み合わせで活動をする機会を設けるために席替えをすることから午後のセッション開始。自己紹介活動で始めたが、互いがほとんど初対面のため会話をする理由があり賑わった。会話の場面設定として、その活動をする理由があるようにすることを強調。

生徒が近い未来に出くわす可能性があるテーマの task に取り組む活動。活動に入る前の準備の活動も丁寧に行われた。いずれのセッションも、説明があり、練習があり、本活動があり、振り返りがあるため、参加者の先生方もセッションの目的が理解しやすかったように思われる。

手前の2つの活動があったおかげで、より難しい課題にも一緒に挑戦しようという雰囲気に包まれることになった。

Speaking (2)

わずか3分で簡潔かつ、参加者を引きつける自己紹介とメンバーチェンジという素晴らしい icebreak をすることでテンポも良く、その上温かい雰囲気の中で本セッションが始まった。

「1分間の会話をする」という活動において、それが自然で意味のあるものにするためには、どういった点に気をつけるべきかについて互いに議論した。

上記確認後、デモンストレーション・レッスンを体験、振り返り。さらに、ペアで協力しながらミニレッスン作成を体験し（その間に丸橋教諭は机間巡視をしながらアドバイスをする）、4人組で教師役生徒役となり互いに実践を披露するという構成であったため、現場に戻って何らかの形で使おうとしてもらえるセッションになったと考えられる。

質疑応答・意見交換会

参加者と英語教育推進リーダーの意見交換会。

さらにこういった学びをするためにはどうすれば良いのか、と言って頂けるほど好印象だった。また、2日間の研修を通じて教員間の交流の場にもなったのは間違いない。

閉会式

総括（山崎吉朗・当研究所主任研究員）



私立学校特別研修会外国語(英語)教育改革特別部会は平成27年度から開催し、今回の福岡県で17回目となります。

高校の外国語で「英語による英語の授業」が原則となった時に、公立では悉皆の英語教員研修がすでに終了しており、そこから除外されていた私学は大きく遅れていました。当時、研究所は教科の研修は取りやめていましたが、英語のみ研修を行うことにしました。さらに、平成27年度からは、文科省はカスケード研修である英語指導力向上事業、LEEPを実施しました。ここでも私学は除外されていました。そこで、2年目の実施を前に、当研究所が中心となって文科省に働きかけました。結果として、私学枠を作って私学教員が参加しやすいようになり、終了後のカスケード研修は教育委員会以外の場所でも可能にするという特別措置をとってもらうことになりました。それ以降、毎年私学教員もLEEPに参加し、私学教員向けの研修を実施してきました。特にこの部会では、今回までLEEP受講者による「英語で英語の授業をするための」ワークショップを続けてきました。文科省の事業は今年度で終了しますが、研修を受けた先生方のネットワークは私学にとっての大きな財産です。この財産を今後も活用していきたいと考えています。

今回の部会では、昨日は久留米大学附設中学高等学校において、授業視察、実践報告、同校の先生方との研究協議を行いました。有意義な情報交換が出来たと思います。

本日は、今回視察校でご協力頂きました同校の町田校長先生より英語及びその他の外国語の特徴についてご講演頂きました。たくさんの言語の一つに英語を置き、英語とはどのような言語なのかを見て、英語の特徴を理解するという、言語学者である町田先生ならではの講演は、これまでの部会の講演とは大きく異なりました。新たな視点で明日からの授業に活かすことが出来ると思っておりますが、いかがだったでしょうか？ここで改めて、今回の研修の受け入れの中心となって頂いた家中先生、町田先生に御礼申し上げます。

参加した先生方は、本日受講したワークショップで得たものをぜひ、他の英語科の先生方に広げて頂ければと思います。一人一人がリーダーです。これが私学のカスケード研修ですので、一人一人が学校を中心になって改革を進めて頂ければと思います。ぜひよろしくお願い致します。

2019年度も、進化させた内容を企画して継続する予定ですので、是非、参加のご検討をお願いします。

◆都道府県別参加者人数◆

No.	都道府県名	参加申込数	No.	都道府県名	参加申込数	No.	都道府県名	参加申込数
1	北海道	1	17	石川	0	33	岡山	1
2	青森	0	18	福井	0	34	広島	8
3	岩手	0	19	山梨	0	35	山口	1
4	宮城	0	20	長野	0	36	徳島	0
5	秋田	0	21	岐阜	0	37	香川	0
6	山形	0	22	静岡	0	38	愛媛	1
7	福島	0	23	愛知	6	39	高知	0
8	新潟	0	24	三重	0	40	福岡	18
9	茨城	0	25	滋賀	1	41	佐賀	2
10	栃木	0	26	京都	0	42	長崎	2
11	群馬	1	27	大阪	2	43	熊本	2
12	埼玉	0	28	兵庫	1	44	大分	0
13	千葉	0	29	奈良	3	45	宮崎	1
14	神奈川	1	30	和歌山	0	46	鹿児島	0
15	東京	1	31	鳥取	0	47	沖縄	0
16	富山	1	32	島根	1			
							計	55
参加	20	都道府県						

アンケート結果 回収率 89% (49名/55名)

○問1 当研修会への参加目的をお知らせ下さい。

- ・他校の先生方の授業を見学できる貴重な機会であるため。
- ・2020年に向け授業改革が必要である中、どのような授業を行っていくか模索中のため。
- ・本校の英語教育の改善にむけて、指導方法等のアイデアを吸収する。
- ・授業力向上のため。最新の教育事情を知るため。

○問2 当研修会の各プログラム・内容等について、参考になった点、感想、意見等をお書き下さい。

研究授業

- ・生徒がテキパキと活動して積極的に学ぶ姿勢がとても良かった。
- ・自分の授業と比較して取り入れるべき所が沢山あった。非常にためになった。
- ・日々の生徒との触れ合い方が学習指導につながるとも感じました。
- ・ペアワークをする、考えさせる時間をとるなど生徒主体の授業が多くあり、活用できる活動は我が校でも実践したいと思った。

実践発表

- ・視察に加え、取り組みや方針を聞いて良かった。
- ・ライティング指導についての考えが参考になった。
- ・家庭学習や生徒をやる気にさせる工夫が参考になった。
- ・すぐに実践できる内容ばかり、これから少しずつ試してみたい。

質疑応答・意見交換会

- ・他県の先生方も日々の授業で様々な悩みを抱えていらっしゃるということが分かった。
- ・悩みに共通する部分が多々あり、話し合うことで今後のヒントを得られたように思う。
- ・他県での取り組みや学校の制度等、楽しく情報交換できた。
- ・研究授業をされた先生方が日頃から心がけていることを聞けて、自分も念頭に置いて指導したいものが見つかった。

講演

- ・言語に対する知識の深さと情熱に感動した。
- ・あらためて言語学の本を読みなおしてみたい。
- ・時制やアスペクトの話など、授業で活用できる事柄を学ぶことができ、勉強になった。
- ・英語を様々な言語と共に勉強すると、新たな側面が見えてきてとても勉強になった。

ワークショップ

- ・実際に自分たちも生徒の目線でコミュニケーション活動を体験することができ、勉強になった。
- ・実践できそうなアクティビティが多いと感じた。
- ・授業のアイデアが増えた。
- ・実践してみることで、授業で活用するイメージができた。

意見交換会

- ・他校の先生方と情報交換ができとても有意義だった。
 - ・名刺交換もできたので、他校の先生方とのつながりを大切にしたい。
- 問3 当研究所の研修事業等に対するご意見がありましたらお書き下さい。
- ・2020年度以降の英語入試とそのため何をするべきか。
 - ・speaking test の評価法。